

## 研修レポート

豊橋市民病院 R2

新城市民病院の総合診療科にて1ヶ月間、地域医療に従事させて頂きました。豊橋市民病院では基本的にERで過ごすことが多く、病院の特徴もあり、急性期の患者様に接する機会が多いです。慢性期やリハビリ目的での入院はなく、転院していくことが多かったですが、新城市民病院に来て、地域性や独居という患者の事情などにより入院加療にならざるを得ない患者様が多く、最初は戸惑いました。

徐々に慣れてくるにつれて、作手の山の上の方で住んでいる患者様や、ご近所ではあるけれども病院までの移動手段がない患者様、独居であり腰痛のためにお一人暮らしを継続できない患者様など、どのように対応するのが望ましいのかわかるようになってきました。

また、救急外来での初診での診療経験はありましたが、自分で外来で患者をフォローしていく機会は今までほとんどなく、「緊急疾患を見逃さなければよい」という考えでした。病院のシステムや患者の都合、病気自体の特性、症状の経過などを考慮し、治療を検討し、修正を加えていく。その難しさや重要性を実感することができました。実際、来年度以降は緊急疾患から慢性的な疾患まで一人で管理できて当たり前の環境に急に変化します。その前に、研修医という比較的守られた環境で、かつ、指導医の先生がいらっしゃる中で、このような経験ができたことは大変貴重であると感じます。おかげさまで少し要領をつかむこともでき、また先生方と相談してやっていけたため、新たな知識や考え方も身につけることができました。特に退院後の入所施設や病院により、処方調節したり、介入する度合いを考慮していくことの必要性を感じ、まだまだ自分一人で行うには心許ないですが、自覚することができました。

もう一つ、豊橋市民病院との大きな違いとして、“総合”診療という点が挙げられます。大きな病院には各科のスペシャリストの先生方がいらっしゃり、困ればそちらにコンサルトをして、助けて頂くことが可能です。ICUもあり、集中治療が必要な重症な患者様であれば、尚更です。しかし、総合診療という面においては、内科的な疾患から外科的な疾患まで少なくとも診断までは自力で行う必要があり、管理についてもある程度の知識が必要になってきます。こんなことまで自分たちでやっているのか！と驚く機会が多々あり、先生方の日頃の大変さを少しですが実感することができました。これから私たちは各診療科に所属し、スペシャリストを目指していくことになっていきますが、いわゆる“ジェネラリスト”的な視点や知識はどの科に進んだとしても重要であると考えます。ここで学んだことを生かし、今後の医師人生に役立てていければと思います。

最後になりましたが、指導医の先生方はじめ、その他各種訪問などでお世話になった方々やコメディカルの方々、ありがとうございました。